

第 19 回 社会福祉士 専門科目（やまだ塾）**国家試験 問題・解説****=④社会福祉援助技術<事例 14>= （問題 129～問題 131）****【社会福祉援助技術】**

（社会福祉援助技術・事例問題3）

次の事例を読んで、問題129から問題131までについて答えなさい。

（事 例）

Kさん(42歳, 男性)は, 中度の知的障害者である。知的障害者更生施設(以下, 「施設」という。)に入所して今年で8年目になる。母親は5年前に他界し, 父親はKさんの弟(37歳)と同居している。弟は会社員で, 父親, 妻子とともに隣の県に住んでいる。弟は, Kさんのことを気に掛けており, 年に数回Kさんを訪ねている。

施設では, 入所者の地域生活への移行を積極的に進めている。施設に勤務しているソーシャルワーカー(以下, 「ワーカー」という。)は, 利用者の地域生活支援を担当している。Kさんは, かねてより, グループホームでの生活を希望しており, ホームの候補をいくつか当たってみることとなった(問題129)。

…(中略)…

Kさんは施設を退所して, 他の5名の利用者とともにグループホームでの生活を始めた。昼間は小規模作業所に通い, ラジオ部品の組立てを行っている。作業態度はまじめである。ただ時々集中力が途切れ, 不良品を出すこともある。Kさんは物静かで人の話をじっと聞くタイプである。着替え, 入浴などには介助が必要で, また, 独りでいると不安になることが多く, 夜間には世話人が話をして落ち着かせることも必要である。作業所からの帰り道で迷子になり, ホームの職員が探したところ, 数時間後, グループホームから3kmほど離れたところにある交差点で不安そうなKさんを見付けたこともある。作業所が休みとなる土日には, 居室に閉じこもりテレビを見ていることが多い(問題130)。

グループホームでの生活を始めて半年が経ち, 作業所での休み時間には仲間と語り合う姿が見られるなど, Kさんは, 新しい生活にも慣れてきたようである。Kさんの今後の生活を考えると, 将来のために様々なことを準備していくことが必要であると考えられた(問題131)。

問題 129 次の記述のうち, この後のワーカーの支援活動として, 適切なものの組み合わせを一つ選びなさい。

A. Kさんに様々なグループホームに関する情報を提供する。

<http://www.yamadajuku.com/>

やまだ塾

Copyright(C) 2007 Shunsaku Yamada. All rights reserved.

- B. Kさんの弟の意向を聞き、弟の意向を尊重してグループホームを決定する。
- C. Kさんとともに、候補となったグループホームを見学する。
- D. Kさんが就労可能であることが条件になるので、グループホームへの移行については、しばらく見合わせる。

(組み合わせ)

- 1 A B
- 2 A C
- 3 B C
- 4 B D
- 5 C D

問題 130 次の記述のうち、この時点での作業所やグループホームにおけるKさんへの支援として、適切でないものを一つ選びなさい。

- 1. 成功体験のために、部品の組立て工程を工夫する。
- 2. 土日には、一人で外出するように助言する。
- 3. しばらくの間は、作業所への行き帰りにホームの職員等が同行するようにする。
- 4. 入居者や作業所での仲間との親睦が深まるようにする。
- 5. ボランティアの力を借りてレクリエーション等の機会を作る。

問題 131 次の記述のうち、この状況において、Kさんの今後の生活を支えていく上で必要と思われる活動について考える場合、適切でないものを一つ選びなさい。

- 1. アパートを借りて一人暮らしを始めることを選択肢の一つとして検討する。
- 2. 地域福祉権利擁護事業の活用の可能性を検討する。
- 3. グループホームに対してバックアップ機能を果たすよう知的障害者更生施設に働き掛ける。
- 4. 個別支援計画を見直し、Kさんとの話を記録する。
- 5. Kさんの一人暮らしに備え、近所の人にKさんの生い立ちなどを十分説明する。